opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 19

過労状態で心身共に疲れ果てていたホセマリア・エスクリバーに巧妙な誘惑がやってきます。

2023/08/31

過去の記事はこちらから

過労状態にあった聖ホセマリアの頭に「平和で静かな生活がしたい」という考えが浮かんできました。たとえば、どこか田舎の小さな教会の主任司祭の仕事を探したらどうかとい

1932年の夏は前回見たような政治の 混乱で休む間もありませんでした。 やっと10月になって念願の長い黙想 会に行くことができました。修道院 にこもって沈黙のうちに祈りに浸る のです。この機会に三つの懸案を神 の御前で考えました。

一つは法学の勉強を続けるかという ものです。これはかつて父親に司祭 になりたいと打ち明けたとき、父から勧められたことで、いわば亡き父との約束のようなものでした。時間もお金もないという悪条件を十分にわかった上でこれは続けることにしました。法学の知識はあとでオプス・デイの教会内での法律的問題を解決するときに役立ちます。

もう一つは大学教授の資格をとるか どうか、でした。これはたとえ経済 的に助けになるとしても、社会での 仕事を探す必要はないと結論しまし た。

三つ目は最も深刻なものでした。つまり、家族の問題です。オプスなられるの仕事に没頭しようとするないから、考えです。しかし、神の御前でこれまでのことを回想しました。経済をいかに大きな犠牲を払ってくれたか鮮明に思い出しました。

そして、「神のことは神の仕方でなされねばならない」という原則を思い出します。つまり、家族を扶養するという正義の義務を放棄すると、オプス・デイ創立の仕事を治なく、オプス・デイ創立を進むさいう困難極まる道を進むってはるというようです。後になります。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-19/ (2025/10/24)